

令和 7 年度
全国学力・学習状況調査の結果



長門市教育委員会学校教育課

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 教科に関する調査 令和7年4月17日(木)
生徒質問調査・中学校理科 令和7年4月14日(月)～17日(木)

(3) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生

(4) 調査内容

- ①教科に関する調査(小学校…国語、算数、理科 中学校…国語、数学、理科)
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙

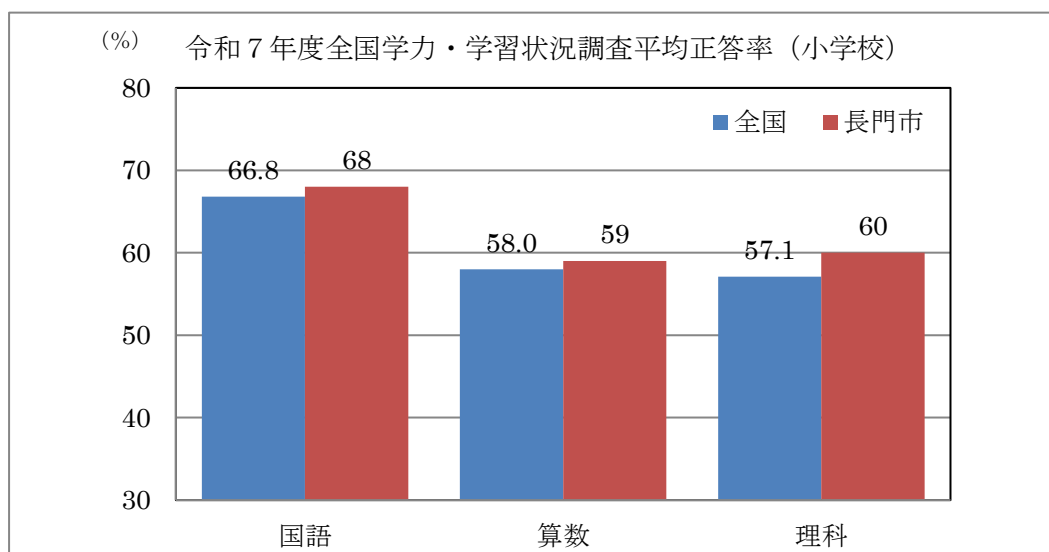
2 学力調査の結果 (○：比較的良好にできている点 ●：課題がある点)

(1) 小学校

	平均正答数(問)		平均正答率(%)	
	全国	長門市	全国	長門市
国語	9.4/14問	9.5/14問	66.8	68
算数	9.3/16問	9.5/16問	58.0	59
理科	9.7/17問	10.2/16問	57.1	60

※学力調査結果についてのグラフの見方

学力調査結果は、全国と長門市の平均正答率を示している。
平成29年度から、県や市の平均正答率は整数値で提供されている。



国語においては全国平均を約 1. 2 ポイント、算数は約 1 ポイント、理科は約 3 ポイントと、全ての教科で全国平均を上回った。

【国語科】

- 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- 文章の中で漢字を正しく使うこと。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること。

【算数科】

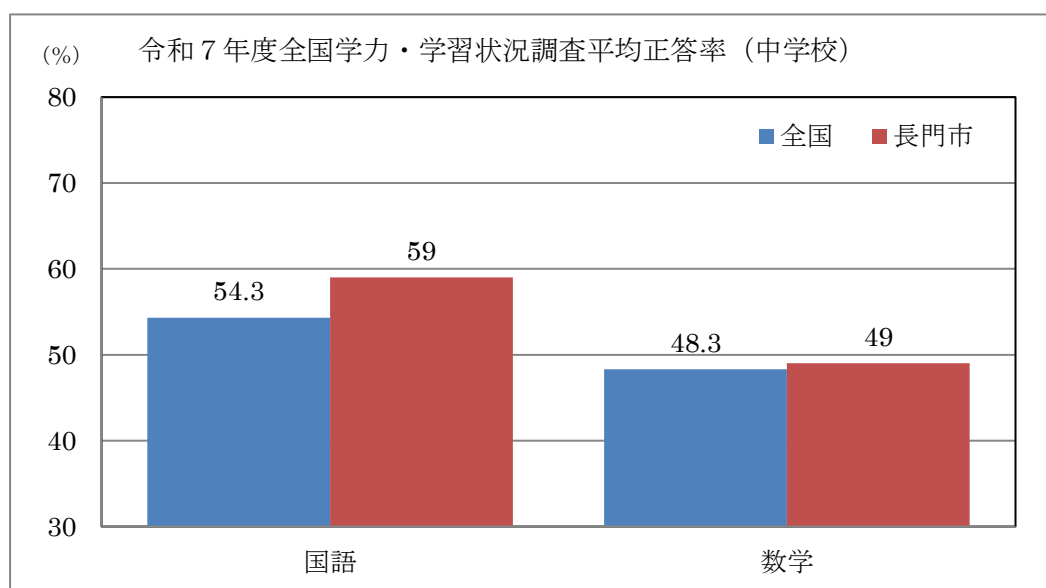
- 伴って変わる 2 つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと。
- 異分母の加法の計算をすること。
- 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を総合的・発展的に考察すること。

【理科】

- 「電磁石の強さやコイルの巻き方によって変わること」の理解
- 「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられるものがあること」の理解。

(2) 中学校 ※理科は CBT による調査のため実施日により問題が異なり、国・数と同様の結果表示はできない。

	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	全国	長門市	全国	長門市
国語	7.6 / 14 問	8.3 / 14 問	54.3	59
数学	7.2 / 15 問	7.3 / 15 問	48.3	49



平成 30 年度の調査から、全ての教科において、全国平均を上回っている。
令和 7 年度の調査においても、国語、数学において、全国平均を上回った。

【国語科】

- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。
- 文章全体の部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること。
- 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること。

【数学科】

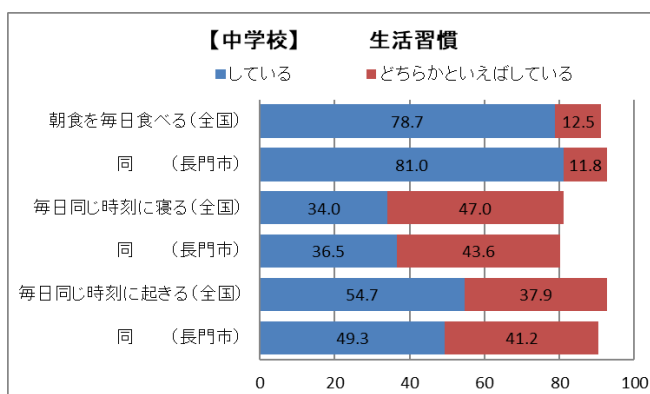
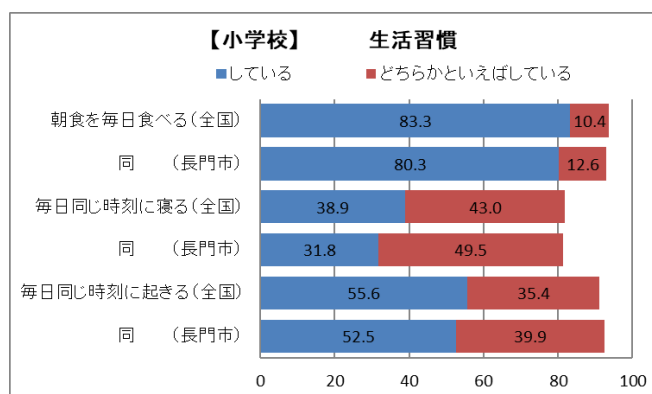
- 必ず起こる事柄の確立について理解すること。
- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること。
- 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善すること。

【理科】※全生徒が共通で実施した問題の結果による分析

- 探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現すること。
- 小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けして分析し、解釈すること。

3 児童・生徒質問紙集計結果

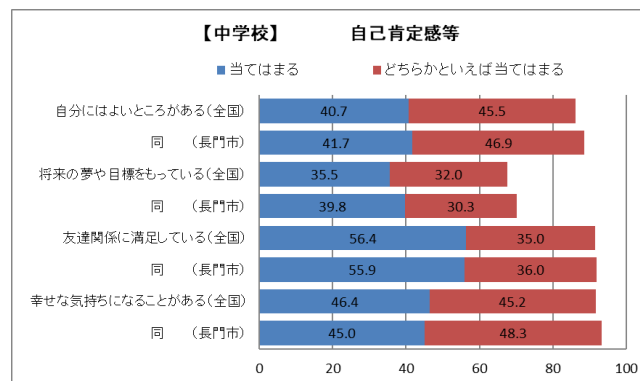
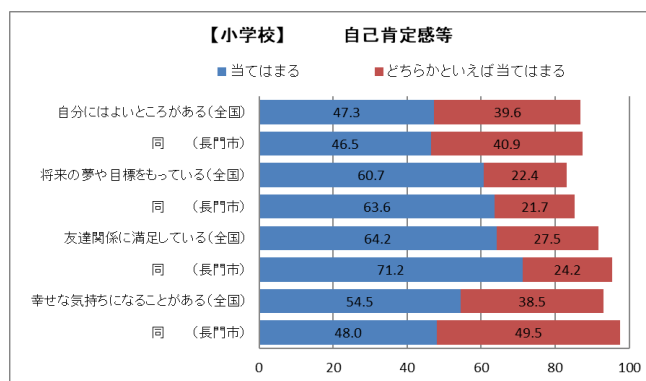
(○：よい点 ●：課題がある点)



(1) 生活習慣など

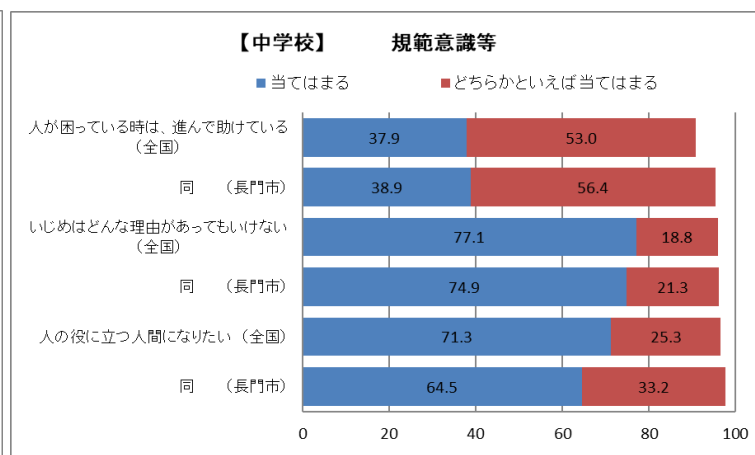
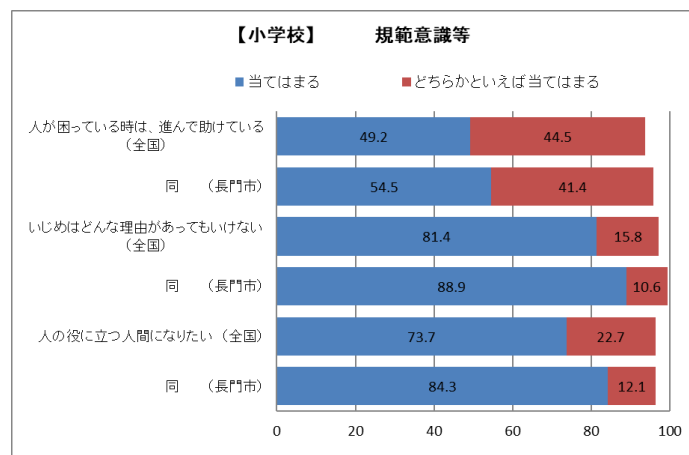
- 中学校において、朝食を毎日食べていると答えた生徒の割合は、全国と比べてやや高い。
- 毎日同じ時刻に寝ると回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国と比べてやや低い。小学校において、朝食を毎日食べると答えた児童の割合も全国と比べてやや低い。

(2) 意識や経験など



○「自分にはよいところがあると思う」と将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

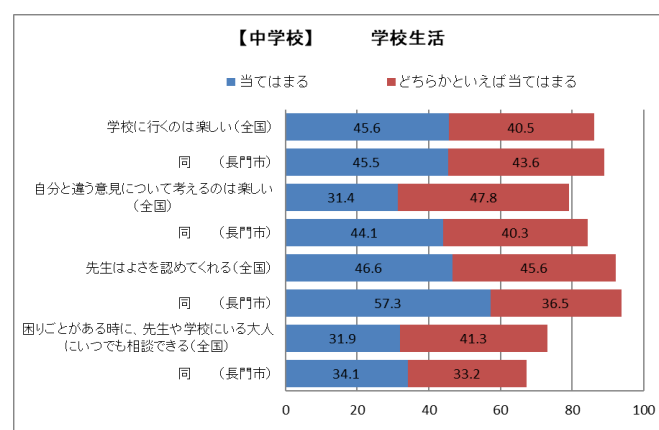
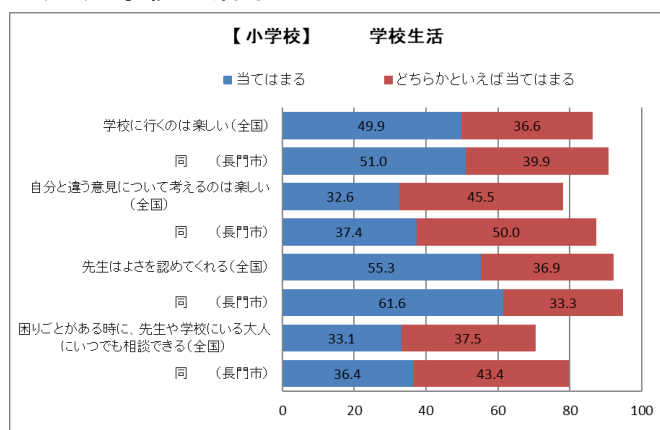
○「友達関係に満足している」「幸せな気持ちになることがある」と回答した児童の割合は、全国と比べて高い。



○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童の割合は全国と比べて高い。

○「人が困っている時は、進んで助けている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

(3) 学校生活など

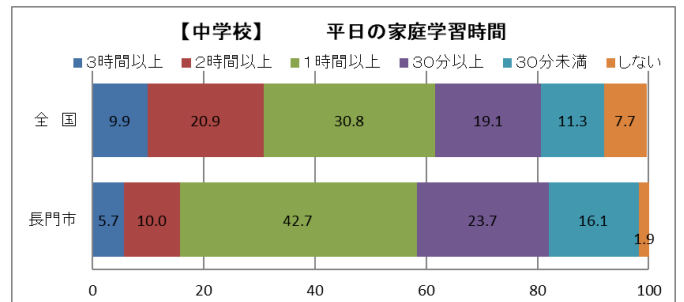
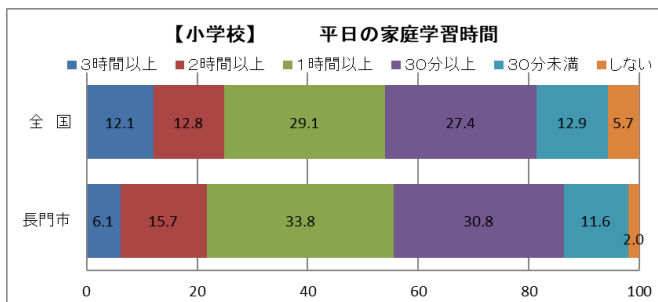


○「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

○「先生は、よさを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

● 困りごとがある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した生徒の割合は全国と比べて低い。

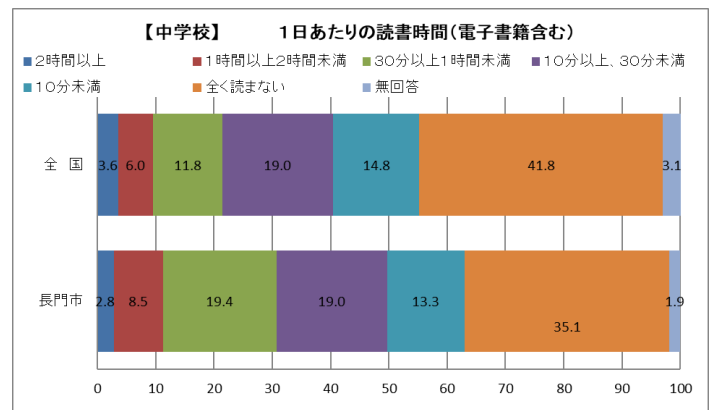
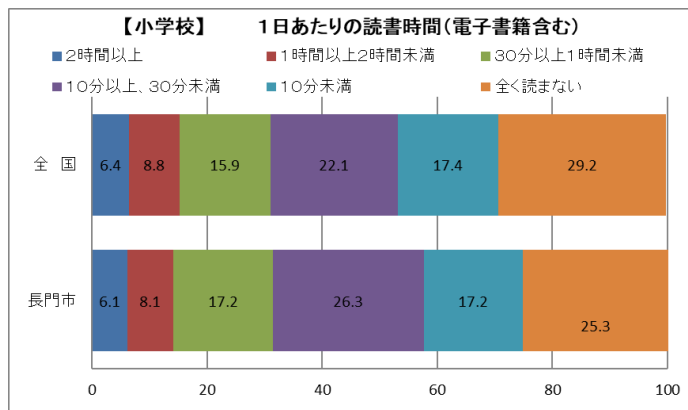
(4) 家庭学習



※学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

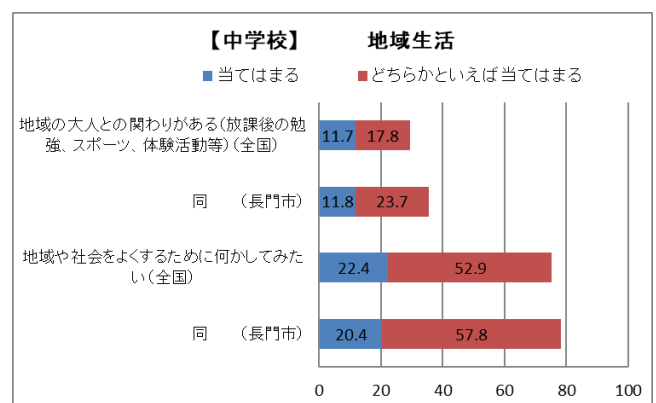
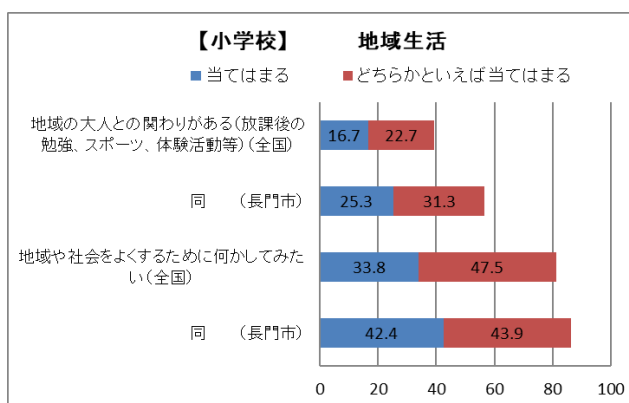
- 小学校、中学校ともに、家庭学習を30分以上している児童生徒の割合は全国と比べて高い。
- 小学校、中学校ともに、家庭で2時間以上学習する習慣のある児童生徒の割合は全国よりも低い。

(5) 読書時間



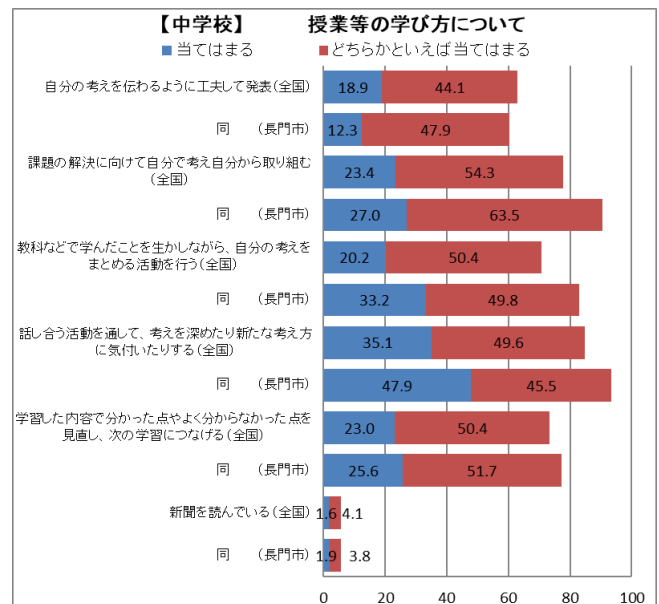
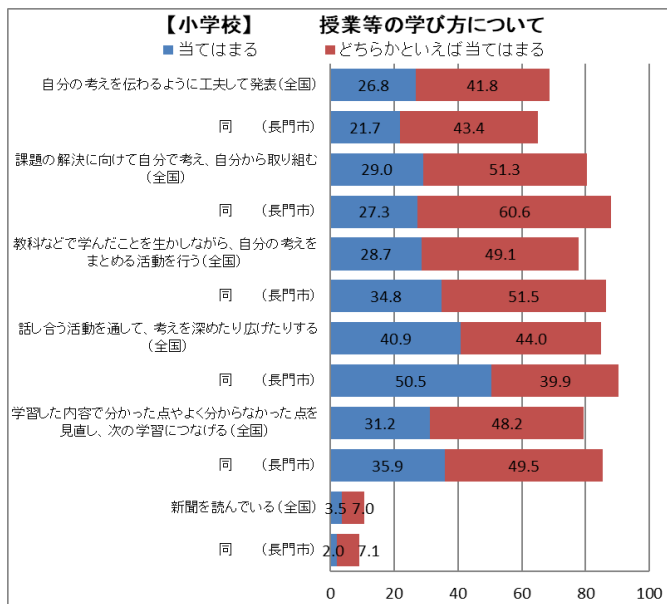
- 10分以上の読書週間がある児童生徒の割合は全国よりも高い。

(6) 地域や社会との関わり・地域での過ごし方

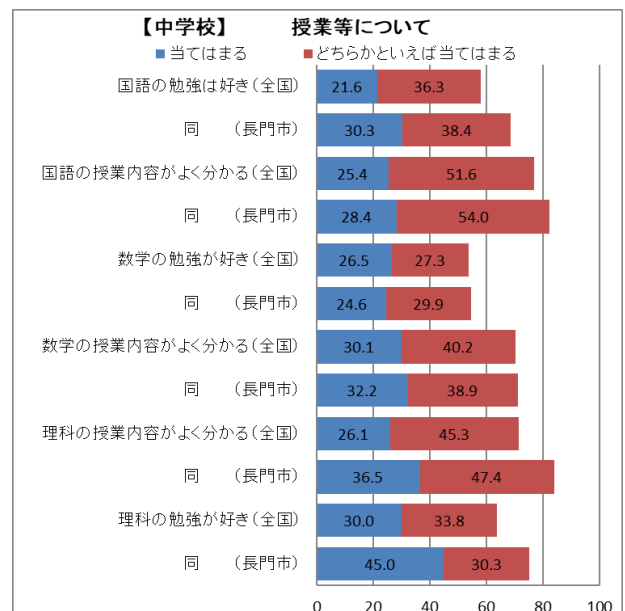
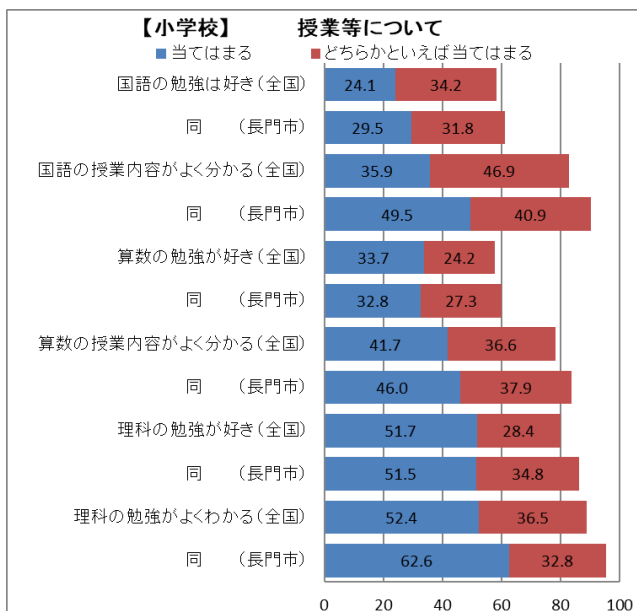


- 放課後、地域の大人と関わりがあると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

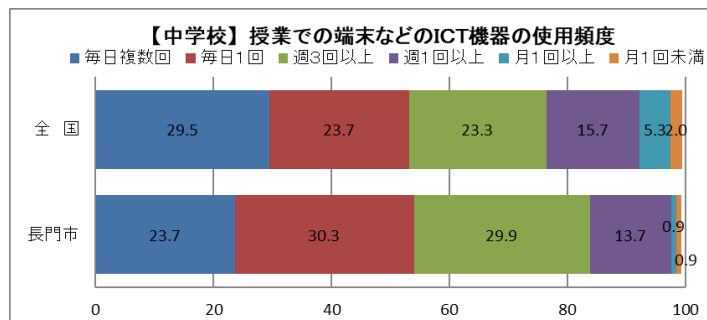
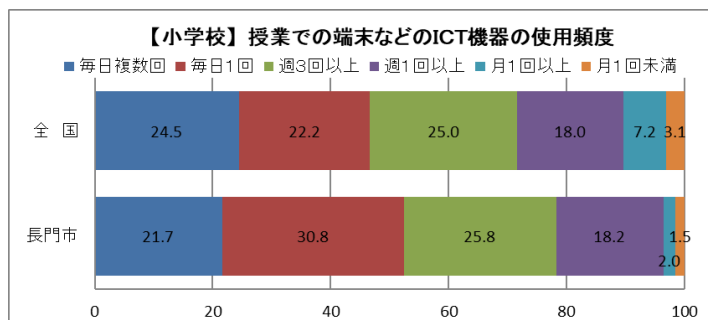
(7) 学びに向かう姿勢・授業、ICTなど



- 授業において「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて低い。



- 小学校、中学校ともに、国語、算数・数学、理科において、「勉強は好き」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。



- 授業でほぼ毎日または週3回以上、P C・タブレットなどのI C T機器を使用すると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 毎日の授業で複数回P C・タブレットなどのI C T機器を使用すると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて低い。

4 学力向上に向けた今年度の取組

(1) 学校での組織的な取組の推進

- ・誤答分析を基にした学力課題の焦点化と解決の方策について、学校全体で共有し、「長門市授業づくりのポイント5」を基盤とした「全校で取り組む共通実践」を設定するなど、全校体制での学力向上を推進する。
- ・年間2回実施する市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、市の課題やめざす授業の方向性を共有するとともに、各校のプランの見直しや改善を図り、授業改善を推進する。

(2) 教員の授業力の向上

- ・年間5回以上の「児童生徒による授業評価」を基に、子どもの思いや願いに寄り添った、「わかる・できる」につながる楽しい授業づくりを推進する。
- ・身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかどうか、教師も児童生徒も確認できるように、授業の「振り返り」で引き出したい言葉を念頭に授業を組み立てる。
- ・算数・数学科における知識・技能の確実な習得（概念的な意味理解）、国語科における語彙の獲得や正しい言葉の使い方等を継続的に指導する時間と場を工夫する。
- ・各教科における思考力・判断力・表現力（特に根拠を明確にして説明すること）の育成に重点を置いて、指導方法の工夫改善を推進する。
- ・学習の基盤となる情報活用能力の育成をめざし、授業における1人1台端末の効果的な活用を促進するとともに、教員のICT指導力の向上をめざし、研修や情報共有等を更に充実させる。

(3) 学校・家庭・地域の連携力の強化

- ・中学校区（みすゞ学園）単位で地域や卒業生の学習ボランティアによる補充学習を計画、実施するなど、地域との連携を図り、地域人材を生かした学力向上に取り組む。
- ・家庭との一層の連携により、家庭学習や読書習慣の定着を図る。また、県教委作成の「やまぐち学習支援プログラム」などを活用したり、平常時における1人1台端末の持ち帰りを推進したりして、家庭学習の充実を図る。
- ・「学びや育ちのカリキュラム（学校・地域連携カリキュラム）」において、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、地域との連携や小中連携を重視した学力向上の取組を推進する。

※児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上をめざして、学校担当指導主事が各校の伴走支援を行ったり、指導力向上のための研修会を実施したりするなど、学校の組織力・教員の授業力・家庭や地域との連携力の強化に努める。

■調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

・ [国立教育政策研修所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」](#)

・ [山口県教育委員会 義務教育課「令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について」](#)

